

## 1000 点を超える作品寄贈 伊藤文化財団によるご支援について

「公益財団法人 伊藤文化財団」は兵庫県立美術館に寄り添うように長きにわたりご支援くださっている財団です。前身の兵庫県立近代美術館の時代から40年以上、美術作品、美術関連図書の寄贈、および展覧会等への助成など様々な形で当館の活動を支えてくださっています。2025（令和7）年度に美術作品36点をご寄贈いただき、ついに寄贈作品が1000点を超え合計1022点となりました。

現在開催中のコレクション展Ⅰ「中原佑介の言葉 — コレクションを見るあたらしい眼」（9月23日 [水・祝] まで）では伊藤文化財団から当館に寄贈された最初の作品ジャン・アルプ《陽気なトルソ》（1965年作、1982年度寄贈）と昨年度寄贈の岡田謙三《海と馬》（1934年作、2025年度寄贈）が会場に並びます。

さらにコレクション展Ⅰの関連イベントとして、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（2000- ）や瀬戸内国際芸術祭（2010- ）の総合ディレクターを務める北川フラム氏によるトーク（7月4日 [土]）などを実施予定です。

この機会に伊藤文化財団様のご支援ならびに当館の活動についてご紹介いただきますよう、お願いいたします。



2024（令和6年度）ご寄贈作品  
青木野枝《Offering / Hyogo》2025年 撮影：山本紉



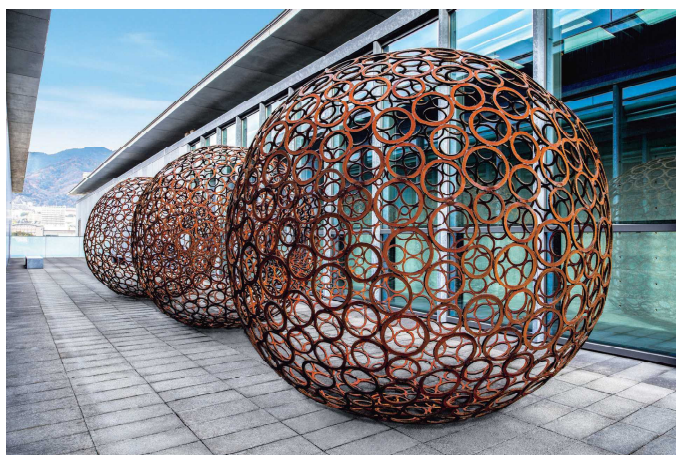
# 伊藤文化財団による寄贈作品が1000点を超えました!

兵庫県立美術館は、前身の兵庫県立近代美術館の時代から40年以上、美術作品、美術関連図書の寄贈、および展覧会等への助成など様々な形で「公益財団法人 伊藤文化財団」にご支援をいただけてきました。

ご寄贈を受けた美術作品は日本近代の名作から現代の作品まで多岐にわたっており、2025（令和7）年度に36点を受贈したことで、寄贈点数の総計が1000点を超えました。その内訳は2026年3月末現在で日本画27点、洋画110点、写真他94点、素描738点、版画43点、彫刻10点の合計1022点です。

作品のご寄贈に加えて、美術関連図書の寄贈、毎年開催する特別展、コレクション展、チャンネル展等の展覧会にご助成いただいているほか、県展でも40歳以下の応募者を対象に「奨励賞」を設けていただいております。また、毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団の協賛により、コレクション展の観覧を無料としています。

この機にみなさまにご報告するとともに、伊藤文化財団様に厚く御礼申し上げます。



2024（令和6）年度ご寄贈作品  
青木野枝《Offering / Hyogo》2025年  
撮影：山本紉

## 公益財団法人伊藤文化財団とは

公益財団法人伊藤文化財団は、1981年に伊藤ハム株式会社創業社長故伊藤傳三氏より寄贈された伊藤ハム株式会社株式500万株、及び現金2500万円を基本財産として設立されました。それから今日まで「近年におけるわが国の物質文化の発展に比して、必ずしも精神文化が均衡である姿で熟成していないことを憂い、兵庫県下の美術館や文化施設等の一層の充実を期すために、民間の立場から協力することにより、優れた芸術文化を鑑賞する機会の提供とその拡大を推進して、県民文化の向上発展に期したい」という趣旨により活動を続けてこられました。現在も受け継がれている伊藤傳三氏の志は、現代に通じる先鋭的な内容のもので、日本では他にわずかしかな例を見ない、世界レベルの考え方を持つ支援財団として、その創業地にある当館の活動を支え続けてくださっています。

## 7/4 [土] 北川フラム氏によるトークを開催

令和8年度のコレクション展Ⅰでは、2006年4月から4年間、当館の館長を務めた兵庫県神戸市生まれの美術評論家、中原佑介（なかはら・ゆうすけ、1931-2011）を特集します。今年には中原佑介氏が亡くなってから15年という節目の年であり、また一大プロジェクトである『中原佑介美術批評選集』が完結するという記念の年となりました。そこで本展の関連イベントとして、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（2000-）や瀬戸内国際芸術祭（2010-）の総合ディレクターを務めるとともに、中原の批評選集の版元・現代企画室代表でもある北川フラム氏をお招きしたトークイベントを実施します。その他にも本展を担当した学芸員によるギャラリー・トークなど、様々なイベントを開催予定です。

ぜひ皆様にご案内をいただくとともに、ご取材いただけますようお願いいたします。

### HART TALK 館長といっしょ! Vol.21

中原佑介が見たもの、語ったもの—『中原佑介美術批評選集』完結を記念して

出演 | 北川フラム（アートディレクター/株式会社アートフロントギャラリー代表取締役会長/  
株式会社現代企画室代表取締役社長）

日時 | 2026年7月4日[土] 14:00-15:30（13:30より受付開始）

会場 | KOBELCO ミュージアムホール

定員 | 150名

※先着順、参加無料（要コレクション展観覧券）

### 学芸員によるギャラリー・トーク

日時 | 2026年5月23日[土]、6月27日[土]、7月25日[土]、8月22日[土]

各日 11:00-11:30（10:45より受付開始）

受付 | 1階エントランス

定員 | 20名

※先着順、参加無料（要コレクション展観覧券）

### ■コレクション展Ⅰ「中原佑介の言葉 — コレクションを見るあたらしい眼」

会期：開催中 — 9月23日[水・祝] ※会期中、展示替えを行います

休館日・休室日：月曜日（ただし7月20日[月・祝]、9月21日[月・祝]は開館、7月21日[火]は休館）

開館時間：午前10時—午後6時（入場は閉館の30分前まで）

会場：兵庫県立美術館 3階展示室、2階展示室

協賛：公益財団法人伊藤文化財団、サンシティタワー神戸（株式会社ハーフ・センチュリー・モア）、一般財団法人安藤忠雄文化財団

協力：株式会社アートフロントギャラリー、株式会社現代企画室、BankART1929

観覧料：一般：550円 大学生：400円 高校生以下：無料 70歳以上：250円

【コレクション展無料の日】

◆公益財団法人伊藤文化財団の協賛による無料日

・第2日曜日（自由に話せる観覧日）

6月14日[日]、7月12日[日]、8月9日[日]、9月13日[日]

・敬老の日：9月21日[月・祝] 県内居住の70歳以上の方は無料

### 取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、メールまたはFAXにてお申し込みください。

メール：[press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp) F A X：078-262-0903

お申込日 年 月 日  
<< ご取材内容 >>

カメラ撮影	<input type="checkbox"/> あり（スチール 台/ムービー 台/三脚・脚立 台） <input type="checkbox"/> なし
取材人数	人
取材時の代表者名	
媒体種別	<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> その他（ ）
媒体名	
掲載・放送予定日時	<input type="checkbox"/> 掲載 年 月 日（ 曜） 時 分
掲載・放送予定日時	<input type="checkbox"/> 放送 年 月 日（ 曜） 時 分

### 広報画像申込書

ご希望画像にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、お申込書を e-mail または FAX にてお送りください。申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

Eメール：[press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp) F A X：078-262-0903

<input type="checkbox"/>  <p>青木野枝《Offering / Hyogo》2025年 撮影：山本糾</p>	<input type="checkbox"/> 
--	--

#### 【画像使用に際しての注意事項】

- 「クレジットを明記してください。○作品画像の加工（着色、トリミング、文字載せなど）はできません。
- 画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。
- \* 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- \* 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。
- \* 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録（DVD、CD）をお送りください。

ご連絡先	担当者名	
	社名・部署名	
	住所	
	電話番号	
	FAX	
	E-Mail	

#### 〈取材についてのお問い合わせ〉

兵庫県立美術館 広報・営業担当 福田・高村・成松 〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1  
TEL：078-262-0905 FAX：078-262-0903 Mail：[press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp)



中原佑介 / 兵庫県立美術館 美術情報センターで、2007年撮影：バンリ NAKAHARA Yusuke at the Art Information Center, Hyogo Prefectural Museum of Art, 2007. Photo by Banri

HART TALK 館長といっしょ! Vol.21

# 中原佑介が見たもの、語ったもの — 『中原佑介美術批評選集』 完結を記念して

**2026.7.4 (土) 14:00 – 15:30** 受付13:30

兵庫県立美術館 KOBELCO ミュージアムホール 先着順 / 参加無料 (要コレクション展 | 観覧券)  
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 〒651-0073 (最寄駅: 阪神岩屋駅 / JR灘駅 / 阪急王子公園駅)

出演 **北川 フラム** 氏 アート・ディレクター、株式会社アートフロントギャラリー代表取締役会長、株式会社現代企画室代表取締役社長

聞き手 **林 洋子** 当館館長

「館長といっしょ!」Vol.21は、国内外で活躍されるアート・ディレクターの北川フラム氏をお招きします。北川氏が総合ディレクターをつとめる「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(2000年-)は、現在さまざまな地域で行われている芸術祭の先駆けとして、日本のアートシーンに大きな変革と転換をもたらしました。北川氏は、中原佑介氏(美術評論家、元兵庫県立美術館館長)とも親交が厚く、中原氏の没後、その蔵書が越後妻有に寄贈されたことを機に、『中原佑介美術批評選集』の刊行を手掛けてこられました(現代企画室とBankART1929との共同出版)。今春同シリーズ全11巻が完結したことを記念し、戦後日本を代表する美術評論家である中原佑介の人と批評についてお話しいたします。



Photo Kanemoto Rintaro

## 北川フラム氏 (きたがわ・ふらむ) プロフィール

新潟県上越市生まれ。東京藝術大学美術学部卒業。展覧会や芸術祭の企画、制作に関わり、2000年から「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、2010年から「瀬戸内国際芸術祭」等の各地の芸術祭の総合ディレクターを務める。2003年フランス芸術文化勲章シュヴァリエ、ポーランド文化勲章、2012年オーストラリア名誉勲章・オフィサー、2018年度文化功労者。2017年朝日賞、2019年イーハトーブ賞など受賞多数。著書に『越後妻有里山美術紀行』(2023年)、『ひらく美術—地域と人間のつながりを取り戻す』(2015年、ちくま新書) など多数。